

リクルート進学総研 高校生調査から見た 地方創生に向けた大学のあり方について

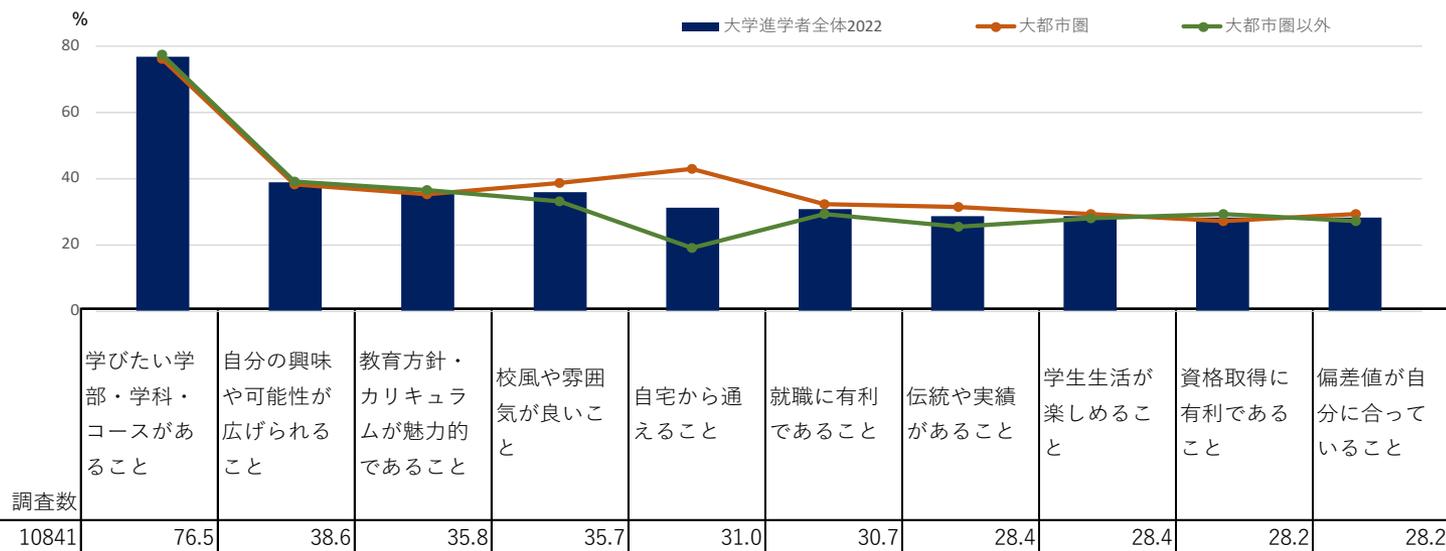


2022年9月12日
リクルート進学総研所長
リクルート「カレッジマネジメント」編集長
小林 浩

高校生は何を重視して大学を選択しているのか

- ◆ 高校生が進路選択をする際に最も重視するのは「学びたい学部・学科・コースがあること」
- ◆ 大都市圏(特に南関東)では「自宅から通えること」が2番目に重視され、他の地域と差が出ている

高校生が進学先を検討する際に重視する項目（上位10項目）



調査数	76.5	38.6	35.8	35.7	31.0	30.7	28.4	28.4	28.2	28.2
大学進学者全体2022	10841									

《高校所在エリア別》

エリア	調査数	75.8	38.3	35.2	38.4	42.7	32.3	31.3	29.0	27.1	29.1
大都市圏	5483										
南関東	2999	76.7	39.9	37.4	41.2	46.3	33.1	32.0	30.4	27.8	29.9
東海	1403	77.0	38.1	33.9	32.1	28.2	32.1	28.1	26.6	28.2	29.4
関西	2104	73.1	37.4	32.7	37.3	39.1	30.5	30.5	28.3	25.9	26.9
大都市圏以外	5358	77.2	39.0	36.4	32.9	19.0	29.1	25.5	27.7	29.4	27.3
北海道	427	74.7	38.6	31.4	33.3	22.7	32.3	23.7	26.7	34.2	24.6
東北	640	80.9	40.2	36.4	25.2	13.0	25.3	21.9	23.0	28.7	22.2
北関東・甲信越	973	81.8	40.3	39.6	36.0	17.7	28.5	26.2	27.7	30.8	32.2
北陸	288	76.0	35.4	36.5	27.4	18.4	31.6	20.5	25.7	25.7	29.9
中国・四国	1002	76.3	35.6	36.8	34.9	15.5	30.0	27.3	31.5	29.6	27.4
九州・沖縄	1005	75.0	39.5	36.4	30.9	19.3	27.6	25.8	27.2	28.4	25.7
大都市圏ー大都市圏以外		-1.4	-0.7	-1.2	5.5	23.7	3.2	5.8	1.3	-2.3	1.8

※大学進学者全体2022の降順ソート

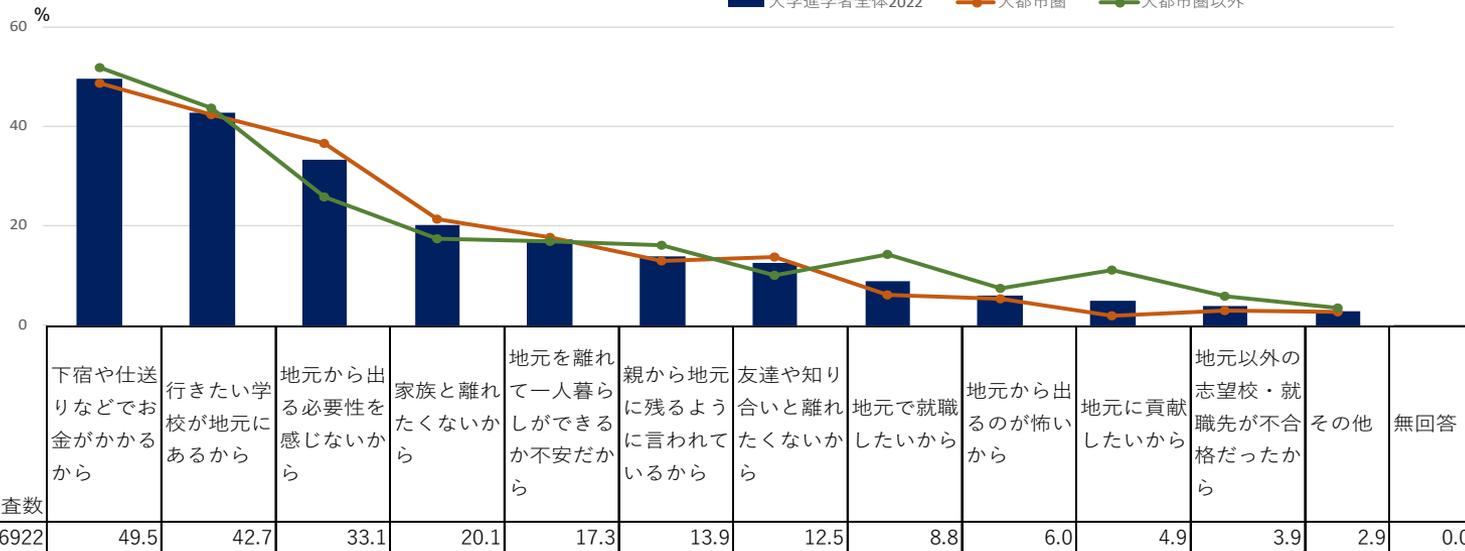
※大学進学者全体の上位10項目抜粋

リクルート「高校生の進路選択に関する調査（進学センサス）2022」より抜粋

自宅から通える大学に進学する理由とは

- ◆ 上位は「下宿・仕送りでお金がかかるから」「行きたい学校が地元にあるから」の順
- ◆ 大都市圏が相対的に高いのは「地元から出る必要を感じないから」
- ◆ 大都市圏以外が高いのは「地元で就職したいから」「地元で貢献したいから」
- ◆ 「親から地元に残るように言われているから」は南関東とそれ以外の地域差が大きい

高校生が「家から通えるエリア」に進学する理由



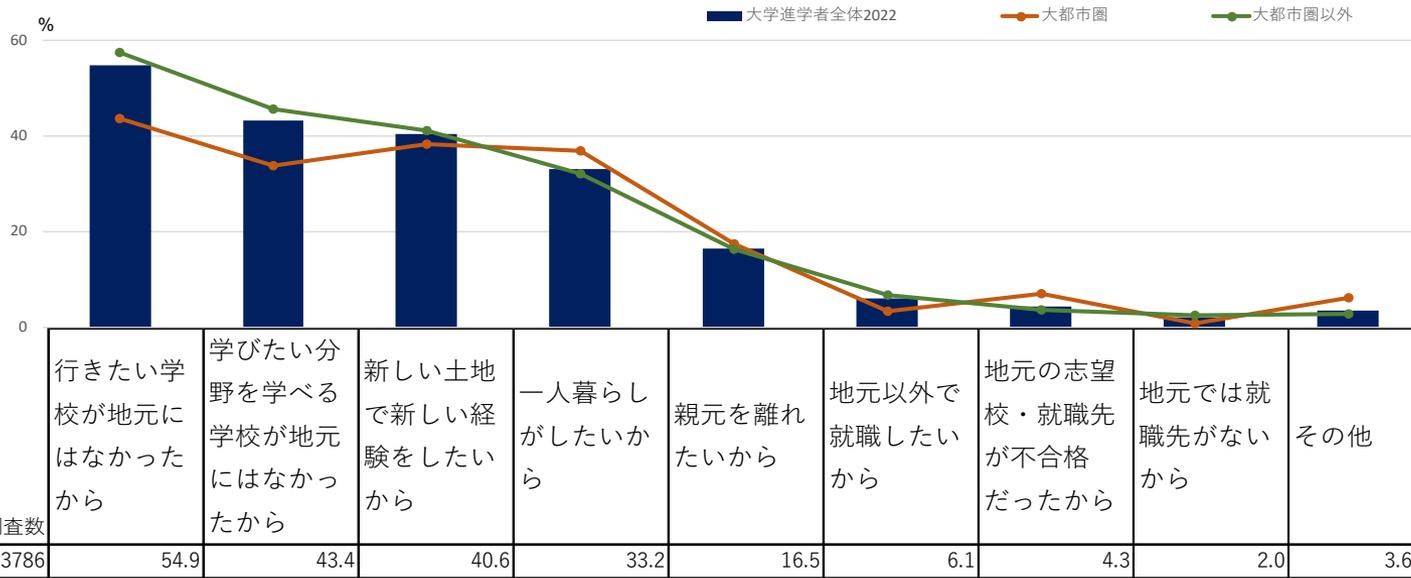
《高校所在エリア別》

大都市圏	4675	48.5	42.2	36.7	21.5	17.6	12.9	13.7	6.1	5.3	1.9	3.0	2.7	0.0
南関東	2690	47.5	41.3	38.9	21.9	17.1	10.8	13.6	4.3	5.1	2.1	2.5	2.9	0.1
東海	873	50.2	45.4	31.5	20.7	17.6	18.4	11.6	13.3	6.2	4.6	5.5	2.3	0.0
関西	1692	51.0	40.5	31.1	20.7	18.3	13.9	13.6	6.6	5.7	2.0	3.5	2.4	0.0
大都市圏以外	2247	51.7	43.5	25.8	17.4	16.8	16.2	10.0	14.3	7.4	11.2	5.8	3.5	0.0
北海道	199	44.2	45.7	29.1	16.6	16.6	12.1	12.1	8.5	7.0	5.0	2.5	3.0	0.0
東北	229	46.3	48.9	26.2	13.5	18.8	14.0	7.4	17.9	6.1	19.2	4.4	3.1	0.0
北関東・甲信越	357	56.6	39.8	25.2	21.3	19.0	16.5	10.9	16.5	8.4	10.9	4.8	4.2	0.0
北陸	104	46.2	45.2	33.7	16.3	14.4	17.3	7.7	20.2	5.8	18.3	5.8	6.7	0.0
中国・四国	324	54.6	45.7	25.3	14.8	13.0	17.6	10.5	16.0	8.3	12.7	8.6	4.3	0.0
九州・沖縄	454	50.2	48.7	26.7	15.2	16.1	19.4	10.1	16.1	7.3	13.0	5.9	3.5	0.0
大都市圏－大都市圏以外		-3.2	-1.3	10.9	4.1	0.8	-3.3	3.7	-8.2	-2.1	-9.2	-2.8	-0.8	0.0

※大学進学者全体2022の降順ソート

- ◆ 大都市圏以外の高校生が、家から通えないエリアに進学する理由は「行きたい学校が地元にはないから」「学びたい分野を学べる分野を学べる学校が地元にはなかった」
- ◆ 「地元以外で就職したい」は南関東以外の地域で相対的に高くなっている

高校生が「家から通えないエリア」への進学する理由



調査数	行きたい学校が地元にはなかったから	学びたい分野を学べる学校が地元にはなかったから	新しい土地で新しい経験をしたいから	一人暮らしがしたいから	親元を離れたいから	地元以外で就職したいから	地元の志望校・就職先が不合格だったから	地元では就職先がないから	その他	無回答	
大学進学者全体2022	3786	54.9	43.4	40.6	33.2	16.5	6.1	4.3	2.0	3.6	0.6

《高校所在エリア別》

大都市圏	737	43.8	33.9	38.4	37.0	17.5	3.4	7.1	0.7	6.2	0.9
南関東	272	39.7	33.1	38.6	34.9	18.4	1.1	8.1	0.4	5.5	1.5
東海	509	53.6	37.5	42.8	43.2	19.6	8.1	4.9	1.8	4.3	0.8
関西	387	49.6	41.3	36.2	31.5	14.0	4.9	5.4	1.6	5.9	0.8
大都市圏以外	3049	57.6	45.7	41.1	32.2	16.3	6.8	3.6	2.4	2.9	0.5
北海道	224	58.0	55.4	38.4	19.2	12.1	8.0	2.2	2.7	1.8	0.0
東北	406	58.4	49.3	43.3	26.1	15.0	6.7	3.0	1.7	2.7	0.0
北関東・甲信越	609	58.6	45.0	38.6	34.3	16.7	4.6	3.9	1.6	3.6	0.5
北陸	179	55.9	41.9	51.4	34.1	24.0	9.5	3.9	2.2	3.9	0.6
中国・四国	665	56.7	44.2	39.2	32.3	15.3	6.6	3.8	2.6	2.3	0.3
九州・沖縄	535	57.2	43.9	41.7	34.6	16.3	6.4	3.9	3.2	3.0	1.1
大都市圏－大都市圏以外		-13.8	-11.8	-2.7	4.8	1.2	-3.4	3.4	-1.7	3.3	0.4

※大学進学者全体2022の降順ソート

Educational Institution Division

調査結果から見た大都市圏とそれ以外の地域の高校生の進学意向についての仮説

- ◆ 高校生が大学を選ぶ際に最も重視するのは学びたい学部・学科・コースがあることだが、大都市圏以外では学びたい分野を学べる学校が相対的に少なく、学びたい分野を求めて地元以外の大学に進学していることが想定される。大学の数自体も少ないため、進学したいと思える大学も大都市圏に比べて少ない
- ◆ 高校生が地元に残る理由として、下宿や仕送り等の経済的負担を気にしており、南関東以外では親から地元に残るようにとの回答が相対的に多く、保護者の影響が少なくないと考えられる。
- ◆ 大都市圏(特に南関東)以外の高校生は、地元への就職や地元への貢献したいという志向が相対的に高くなっている。その一方で、地元以外に就職したいという理由で地元以外に進学している高校生は南関東と比較して多くなっている。このことから、単に大学に進学するというだけではなく、中高生のころからの地元産業の理解や、地域への就職に向けた興味喚起、地域に貢献できるキャリア形成等の提示が地元進学を積極的に選択する要素となり得ると考えられる。
- ◆ 一方、大都市圏の高校生は、自宅から通えることを重視しており、そもそも地元から出る必要性を感じていない。

◆各地域における社会のニーズに合致した学問分野の充実

地方においては、大学の数が少なく、地元において学びたい領域・分野が十分にカバーできていないことが考えられる。社会環境は大きく変化している。各大学において、社会のニーズに合致した学部・学科・コース・プログラム等の充実を図っていくことが重要となる。その一方で、地方大学は小規模大学や単科大学が多く、十分な経営的リソースを持っていないこと、少子化が一層進むことが想定されることから、単独大学だけでなく、他大学との連携等によって、その地域全体として必要とされる学部・学科・プログラム等を充実させていくことが重要と考えられる。

◆個々の大学の存在価値（VALUE）の明確化・魅力化

個々の大学においても、総花主義・平均主義から脱却して、その大学ならではの存在価値（VALUE）を明確化すること、それを高校生にわかりやすく伝えていくことによって、進学先として魅力的な大学創りを推進することが重要である。地域に根差して地元就職を目指す大学や、そこでしか学べない特化した教育・研究で全国から学生を集める大学等が考えられる。そのためにも、その大学の強みや個性を磨き込み、各大学の大学改革を進めやすくするような支援（インセンティブ）が必要ではないか。

◆大学と地域産業との連携・創出、理解の促進

大学の学部構成を見ると、地域の産業構造と合致していることがわかる。地方において地元で就職したい、地元で貢献したいという高校生は少なくない。単に地元就職率を高めるということにとどまらず、卒業後のキャリアイメージの醸成、地域産業の創出や理解の促進、サポートが必要。産・官・学・金が連携した地域の産業クラスター形成も期待される。

（ex.日本版シリコンバレーやピッツバーグメディカルセンター）